

(陳受28第17号)

義務教育課程における平和教育に係る課題図書に関する陳情

受理年月日

平成28年 3 月11日

陳 情 者

陳 情 の 要 旨

近ごろ、動物の殺処分及び国政における戦闘的態勢の推進、歪曲した愛国心及び人権意識の助長、アイヌ及び在日朝鮮人への差別及び弾圧並びに戦犯の英霊化及び神格化などを、著しく不当に合理化、擁護もしくは賛美し、または正当化する情勢が加速しつつある。また、保守、革新及び中立不問で、日本国民が、おのれを正当化せしめ、自身に不都合な相手を一律悪と決めつけ、またはこれに不当もしくは過剰な怨恨呪詛を抱き、淘汰しようとする傾向に陥りつつある。

そもそも、保守、革新または中立のいずれにおいても、その自由が保障されており、それぞれが平等に良心及び正義に基づく存在である。しかしながら、保守、革新及び中立のいずれに属する者たちにおいても、互いに他者の存在、意見もしくは思想を否定し、またはこれを悪とみなし、しゃくし定規に怨恨呪詛に充満した「反対」のフレーズの連呼をなす。自身の意見に染めることは、わかり合うことではない。いかに各自に正義の意図があろうとも、「反対」を連呼し、または相手を悪と決めつけた時点で、彼ら自身が、他者を理解しようとも努めない、他者への思いやりなき攻撃的な悪に転身する。この悪に、保守も革新も中立もない。古きよき昭和の大和魂を取り戻すためにも、いま一度、平和教育に尽力する必要がある。異なる意見を認めることが、わかり合うこと。

動物の殺処分の問題と同様に、この戦争の問題も、活字情報だけでは残念ながら、その悲惨さは伝わらない。活字だけでも相当に強烈な描写であり、さらに情け容赦ないハードなタッチのイラストも加わった上での暴力描写満載の戦争漫画である「はだしのゲン」にあっては、物議を醸すものの、戦争の悲惨さを直球で伝達する極めて有用なメディアであるとともに、活字及び画像媒体の芸術作品としても至高の傑作図書として知られている。戦争の悲惨さとあわせて命のとうとさを学ぶことで、人間形成に相当に良好な影響を与え、将来、真っ当な成人になることと思料される。これにより、我が国における猟奇的または凶悪な犯罪が減少するとともに、平和的外交へ向けた寄与をなせるものと期待できる。

以上の趣旨から、市及び教育委員会並びに関係機関に下記事項を働きかけるよう陳情する。

記

- 1 義務教育課程において平和教育の一環として、広島の実爆被爆者による自伝である漫画「はだしのゲン」を課題図書にすること。
- 2 学校図書館及び市立図書館に当該図書を、「平和教育」を思わせるフレーズを含んだ目立つ様態での特別なスペースに置くこと。